

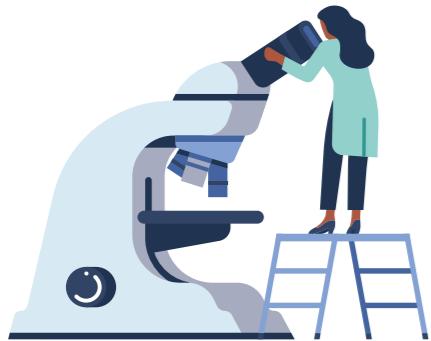
私たちが目指す
地域医療は
VISION から
MISSION へ。

TIMPU JOURNAL

Vol.2

TIMPU
JOURNAL

東北医科薬科大学
TOHOKU MEDICAL AND PHARMACEUTICAL UNIVERSITY



小松島キャンパス 〒981-8558 宮城県仙台市青葉区小松島4丁目4番1号 Tel:022-234-4181 Fax:022-275-2013

福室キャンパス 〒983-8536 宮城県仙台市宮城野区福室1丁目15番1号 Tel:022-290-8850 Fax:022-290-8860

医学部
医学科特集

DEPARTMENT OF
MEDICINE



東北医科薬科大学
TOHOKU MEDICAL AND PHARMACEUTICAL UNIVERSITY

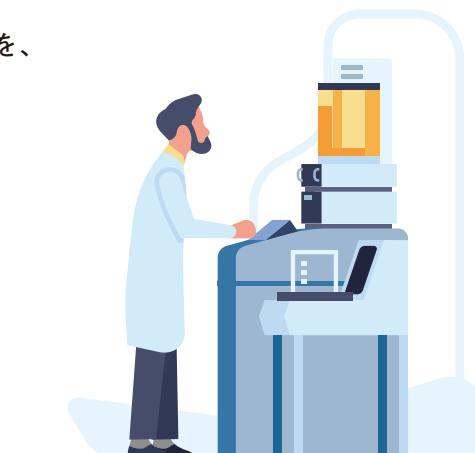


東北医科薬科大学の 医学部生として

2022年3月、東北医科薬科大学医学部から、初めての卒業生が飛び立ちました。本学は長い間、「東北薬科大学」として親しまれてきましたが、2015年8月に国内において37年ぶりに医学部設置が認可され、2016年「東北医科薬科大学」として新たにスタート。この医学部設置は、2011年に発生した東日本大震災により顕在化した東北地方における医師不足の解消、そして地域医療を支える総合診療医、いわゆる“かかりつけ医”的育成が目的とされ、本学の描く医学部生像、"VISION"となりました。

これから 東北の医療を 支えることを使命に

本学の医学部生は、東北地方における医療の在り方や医師不足の現状を、教科書からだけでなく東北の各病院での体験学習や臨床実習を通じて「医療の現場」からも学び、肌で感じます。そして卒業を迎えた時、期待する医学部生像を実現させ、それぞれの学びから根付いた自らの役目 "MISSION" を果たすべく東北の医療現場へと羽ばたきます。



TIMPU JOURNAL

1

ACTIVITIES

P2

河合 佳子教授
吉村 拓人さん
古川 治奈さん



2

ACTIVITIES

P4

中村 豊教授



3

ACTIVITIES

P5

森口 尚教授
高井 淳助教
島田 昂志さん

4

INTERVIEW

P6

五十嵐 浩平医師

5

INTERVIEW

P7

井上 まり絵さん(在学生)

CAMPUS GUIDE P8
福室キャンパス紹介



C1

TMU
ACTIVITIES

ずっと支え続けます
医師として奮闘する日々も、



医学部卒業生交流支援
センター長
河合 佳子教授
医学部医学科 6年
吉村 拓人さん
2023年3月 医学部卒業
医学部医学科 6年
古川 治奈さん
2023年3月 医学部卒業

在学中に
インタビューを
行いました!在学中に
インタビューを
行いました!

卒業生と共に医療の明日を創る 医学部卒業生交流支援センター

「医学部卒業生交流支援センター」は、大学と卒業生が一体となり医療に携わる皆さんを支えることを目的として設置されました。医学部が2016年に設立され、毎年多くの卒業生が輩出されていきます。新設医学部の卒業生ですので、同窓生の少なさや不慣れな地域での勤務に困ることも出てくるかと思います。そんな時の相談先として、また在学中も卒業のことなど卒業生に聞いてみたいことはたくさんあります。当センターは、卒業生、在学生、大学の三者間交流により、貴重な経験を仲間たちや後輩たちに伝え、医師としての成長をサポートすることを目指しています。

河合／おふたりは二期生ということで、まさに医学部の創成期を担った方々になるわけですが、やはり大変だな、と感じることもありましたか？

古川／学年が進んでからのことや、卒業後のこととか、気になることを先輩に聞いて、「私達も知らないんだよね」とか「まだ決まってないんだよね」とか、「ああ、どうしよう」と思ったことはありました。

吉村／歴史がないので、試験の過去問の蓄積などもなかったですし、部活も自分達でゼロからつくっていく必要があった。なにしろ前例がないので、自分達がいい前例



インタビュー抜粋です。全文は本学ホームページをご覧ください。

を創る、という気持ちが強かったです。

古川／卒業後の道筋や指標みたいなものもまだ未定だな、と不安に思いましたが、父に「一期生と二期生は伝説をつくる存在だ」といわれ、「よし、じゃあやってみよう！」と。

河合／一期生・二期生はパイオニア精神が豊かな面々だったな、と思います。

古川／一期生はパイオニア、二期生は調整役ですかね。一期生がものすごいエネルギーで生み出したものを、二期生が方向性を整えて、合わせて医学部創生の伝説へ！ という学生生活で楽しかった。おかげで、他では経験できなかったことを、たくさん経験できたと思います（笑）

吉村／この大学の特長だと思うんですけど、先生と学生との距離がとっても近くて、先生方が学生から出ている要望を直接聞く会とかを開いてくれたりして、先輩がいない分、先生方と話してました。

河合／コロナ禍になる前は、県人会とか部活とかで、飲み会なども多かったよね。先輩がいない分、教職員が学生さん達のできるだけ近くにいよう、学生さん達が学年や学部を超えたつながりが持てるようにならう、というのは大学側の思いでもありました。

河合／卒業にあたり、医師として働くことへの心配はありますか？

古川／同じ大学を卒業した人は、そこに強いつながりがありますよね。たとえ学年が離れていても、他の人達とは違うつながりが確実にある中で、私達は1個上の先輩方としかそれを築けないんだなあ、と思ったことはあります。

吉村／一番大きいのはケースモデルが少ないこと。大学生活では一期生100人という見本がいたけれど、これから先、専門にする診療科とかが違ってくるので、参考になるケースモデルもかなり限られてしまいますよね。

河合／やはりそうですね。そういう不安がおそらくあるだろうと思ったので、一期生の卒業と同時に卒業生交流支援センターを作りました。6年間を振り返って、こういうのがあったら良かったなあという希望はありますか？

吉村／在学中は、専門医となるのかなあ、この先どういう風に進んでいくのか分からないなあ、と不安でした。先輩方が研修医としてどんな風に過ごしているのかとか、どんな診療科に進んでいったのかレポートしてくれると助かります。

古川／卒業後の臨床研修（※1）をする病院を選ぶ時も、特に自分の出身地以外の病院を考えたりする人は、先輩からの情報が少しでもあると本当にありがたいと思います。先輩方と連絡を取れる、ということへの安心感もあると良いです。

河合／卒業生交流支援センターでは、「国試直後の座談会」とか「臨床研修病院を決める前の病院面接のポイント座談会」などを企画しています。その他に「こういう話が聞きたかった」などありますか？

古川／「病院を受ける前に3回は面接に行け！」とよくきましたけど、具体的にいつ行ったら良いか分かりませんでした。実際のカリキュラムに沿って、「この時期なら面接に行ける」とか「私はこの時期に行つた」とか、具体的な情報が聞いたら良いと



思います。

吉村／同じカリキュラムを経験した人にしか分からない、例えば「6年生のこの時期は、こういう風に進んでいくって、ここは忙しくなるから、ここで勉強しておいた方が良い」といった、自分のカリキュラムに合った流れが分かる情報が一番欲しいかな。

河合／なるほど。具体的な流れや実際の経験を、先輩から聞くのが一番いいんだね。今後はその視点で企画を考えてみます。吉村君は卒業後、卒業生交流支援センターのSNS「Chimer（※2）」の運営を手伝ってくれる予定ですが、何か考えていることはありますか？

吉村／一期生が去年1年間やってくれたことは、すごく良かったと思います。激励もいただいた勇気づけられました。それに加えてこれからは、後輩に自分達の経験をきめ細やかに伝えることもしたいと思います。例えば、ポリクリ（※3）が始まる前に、今後の見通しをちょっと教えてあげたりとか、

河合／卒業生交流支援センターとして将来的には、卒業後、医師として活動していく上で、または転職などを考えた時に、同じ道を歩んだ先輩の話が聞けて、連絡を取り合えるような環境がつくれれば嬉しいです。自分の経験を後輩に伝えられるというメリットと、自分の必要とする情報を同窓生から得られるという2つのメリットでつながっていけるようなコミュニティを目指したいと思います。



※1／医師免許取得後、診療に従事しようとする医師は、大学病院または厚生労働大臣の指定する病院での2年間以上の臨床研修が医師法により義務付けられています。※2／Chimerは、本学医学部で臨床実習に出る資格を得た人と本学教職員のみが、任意で実名で入ることができるSNSです。※3／ポリクリは、医学部在学中の臨床実習の通称です。

02

TMPU
ACTIVITIES

医学部
中村 豊教授
医学教育推進センター長



個人に合わせた指導・
アドバイスで
ストレート進級 &
国家試験合格を目指す。

ストレート進級率の高さが 合格率に直結

医学部医学科に在籍する学生の最大の目標である医師国家試験を突破するために、1年次から6年次までの進級をストレートに達成していくことが重要です。1年次からひとつひとつの知識や経験を積み上げ、積み上げたものをさらなる年次の基礎として理解を深めていくことで、付け焼刃では突破できない国家試験への大きな力になる。目に見える点数だけに限ったことではありません。授業や試験、更には臨床実習に取り組む姿勢や望ましい人間性などが身についていてこそ進級が違うわけですから、我々教員は日ごろから学生と対話し、話し合い、サポートすることを業務としています。

アドバイスに留まらない 実践的指導

まずは担任制。6年間の教育期間すべて



インタビュー抜粋です。全文は本学ホームページをご覧ください。

に担任が付いており、学生の身近でひとりひとりと接することで、不調に気付いてケアしたり、相談しやすい態勢を作ったりと学生生活を支えています。実際、成績の揮わない学生に対するケアについてはいくつも対策が練られてきましたが、やはり大元の原因には1年次2年次での躊躇があるんですね。特定の科目に遅れがある、というよりは、授業への取り組み方や勉強の仕方そのものにうまくいかない問題があります。そうした点を担任制によっていちばんよく見つけて、医学教育推進センターとしても面談を行っています。具体的に、どういう勉強法をしているのか、自分では何が問題だと思うかを聞きだした上で、担任や私たちから客観的な分析を加えたアドバイスします。

卒業生へのサポートも 国家試験合格まで継続

何らかの要因で国家試験を突破できなかった卒業生も、次年度には必ず合格できるようサポートを続けています。2カ月に一度、定期的に面談をして模擬試験の結果について話し合ったり、体調管理についてのアドバイスをしたり。孤独にさせないと、モチベーションを保ち続けることができるようサポートすることがやはり大事で



ですから。昨年に既卒となった学生も、今年3名全員が国家試験合格を果たしました。

卒業後、東北の地域医療に 貢献してもらうまでが本学の使命

東北医科薬科大学の医学部医学科は、東日本大震災からの復興のため「地域医療に貢献する医師を輩出する」ことを目的として創設されました。全国各地から集まってくれた学生達が卒業後、東北地方に定着して地域医療に貢献してもらうまでが本学の使命なのです。多くの病院で表面的な見学実習を行うよりも、ひとつの病院でその病院ならではの医療や地域の特色・課題、さらに住んでおられる方々としっかり向き合い自分は何をすることができるのか、明確な目標をもった方がいい。学生が実習で訪れた病院にその後臨床研修医としてお世話になっているものが多く、我々

としては大変嬉しく思っています。

03

TMPU
ACTIVITIES

医学部
森口 尚教授
医学部医学教室 教授

医学部
高井 淳助教
医学部医学教室 助教

在学中にインタビューを行いました!
医学部医学科 6年生
島田 昂志さん
2022年3月 医学部卒業

Q1 島田さんが研究に参加した 理由はなんでしょうか。

島田／大学を卒業後は臨床医として働くことになるので、学生のうちに基礎分野にできるだけ触れて、その技術や科学的な考え方を学べたらいいな、と思ったんです。そして、研究室ではいい意味でトライ＆エラーを繰り返せるところがおもしろいな、と。いわゆるドクター、臨床医は失敗ができない。トライしたらエラーは禁物で、成功に繋げる道を構築しなければいけないけれど、基礎科学の研究においては、思い切ったチャレンジもできる点がいいな、と。

高井／そのトライ＆エラーと彼がいった点については結構深い理由があるんです。島田くんには実験の立ち上げから参加してもらったんですが、その実験というのが、いわゆるヒトの消化管穿孔を模したマウスの手術をするもので、私自身やったことのない実験でした。

Q2 このように学生が研究に 本格的に参加する、 という事例は多いのですか。

高井／島田くんの年次でいえば3人。100人中の3人かな。医学生ってすごく忙しくて、授業だけでいっぱいいっぱいになっちゃうことが多いんですね。だけど島田くんは、試験でも優秀な成績を修めつつ、授業が終わってから研究室に通いつつ、休日には遊びつつ、ということができると稀有な学生(笑)。何事も楽しんで取り組んでいるからなのかな。

森口／島田が3年生の時から、高井先生が直接実験のやりかたから遺伝子学全般についてよく教えてくれて、彼の知識も技術も高まった。その土台があったから、時間の合間を見つけては研究を少しづつ進めて来て今回の発表に繋がった、ということですね。

Q3 将来の進路について、 どう考えていらっしゃいますか。

島田／僕は「東北地域医療支援修学資金」という制度を利用して学んでいるので、卒後、研修医としての期間が終わったら10年間は宮城県内で医師として働くことが決まっています。もちろん、それが自分の希望もあるのですが、その先を考え



るなら、臨床医として一步先に行くのもいいだろうし、研究に戻るのもおもしろそうだと思います。10年の中で、じっくり考えていくたいですね。

森口／今、本学は大学院を設置すべくものすごく努力をしている真っ最中です。(※1) そうすると、島田くんのような臨床医を第一に目指している方たちにも更なる可能性が開けます。一般的に大学院には社会人枠がありますから、勤務医と院生の両立が可能なんです。

高井／本学では、「地域医療に貢献する総合診療医を育成する」というテーマが大きく掲げられているので、高校生の皆さんも東北医科薬科大学イコール卒業後は地域の病院勤務というイメージがあると思うんですが、こうしたサイエンティフィックな、知的好奇心を大いに發揮できる場もあるということを知ってほしいですね。

※1／2023年4月大学院 医学研究科が設置されました。



インタビュー抜粋です。全文は本学ホームページをご覧ください。

教員とともに研究に勤しむ。
医学生の可能性をより大きく
広げるキャンパスライフ。

04

OB
INTERVIEW東北医科薬科大学病院
臨床研修医2年目

五十嵐 混平医師

2022年3月 医学部卒業

実習で学んだ
地域医療に必要なもの。
医師としての強みをつくり、
貢献していきたい。



Q1 東北医科薬科大学を知ったきっかけはなんでしたか？

自分の希望と照らし合わせて選択できる奨学金制度。

高校時代に一緒に勉強していた友人から、「仙台に新しい医大ができるぞ」と聞いて、興味を持ったのがきっかけでした。わたしは富山県出身で、東日本大震災は被災しておらずテレビでの映像を見ていただけでした。大学や東北地方について調べていく中で、震災の被害の大きさに改めて衝撃を受け、「今からでも自分に何かできることはないだろうか」と思うようになりました。また、国公立大学は一校しか受験できないこともあり、進路について迷っていました。そんな中で東北医科薬科大学の医学部新設を知り、加えて奨学金制度が充実していることを知って、「これはチャンスかもしれない。チャレン

ジしてみよう」と思ったんです。東北医科薬科大学の基本理念のひとつとして、「東北の地域医療の未来を支える人材育成」があります。わたしが利用した東北地域医療支援修学資金制度は、大学を卒業後、東北6県内で10年間医療に従事することが条件となっているもの。医学部・薬学部それぞれに条件の異なる制度が複数あるので、自分の希望と照らし合わせて選択できるのもいいところだと思います。

Q2 東北医科薬科大学で学ぶ上の特徴はどんなものがありましたか？

1年生のうちから地域の病院で現場を経験できる。

1年生のうちから地域の病院に行く機会が多いのが特徴ですね。もちろん1年生ですから、実際の医療行為などには携われませんが、臨床の現場を肌で感じるだけでも大いに意義深いと思います。わたしは南三陸病院に行きましたが、そこは東日本大震災すべて流され、新設された病院。当時はまだ患者さんたちの生活環境やメンタルも十全とは言いがたい状況でした。1年生の自分としてはただただ患者さんと接して、問診する、話を聞くことしかできなかったのですが、そうした状況の中で現場はどう動いているのか、何

が必要なのか、ということを知ることができたのは大きな経験だったと思います。

Q3 研修医として、どのような将来を思い描いていますか？

研修をしたからこそ見えてきた将来の明確なビジョン。

研修も2年目に入り、1年目よりもできることが増えてきて、いろいろなことに積極的に取り組めていると思います。治療の根幹に関わるようなことは、自分ひとりの判断ではできないので先生と相談しながらになりますが、よりよい提案ができるよう成長している自負はあります。そして、研修中は様々な診療科を回って指導を受けるのですが、ゆくゆくは消化器内科を専門にしたい、という希望も固まりました。

6年生時の南三陸病院での実習の中で、消化器内科の先生の患者さんに対する対応や技術力の高さがすごく印象的で、「医師としての武器を持っていることが地域医療においてとても有効だ」ということに気づいたんです。そして、佐藤賢一先生や遠藤克哉先生をはじめとする消化器内科の先生方を本当に尊敬しているので、ぜひ後に継ぎたいと思っています。



インタビュー抜粋です。全文は本学ホームページをご覧ください。

05

STUDENTS
INTERVIEW

インタビュー時の学年です

医学部医学科3年
井上 まり絵さん

日本赤十字看護大学卒業

医師不足に悩む地方を救いたい。
薬学部との理解を深め、
多職種連携の必要性。

地域医療の実習で感じた、



この経験は地域医療の現場に出たときに、大きな力になると感じています。

Q1 多職種連携の必要性は、看護師の頃も感じていた？

異なる視点からのアプローチが、より効果的な治療につながる。

そうですね。医師だけではなく、看護師、薬剤師など異なる視点から患者さんを診ることで発見があり、一人ひとりに向き合った効果的な治療につながると思っています。しかし、実際の医療現場では、それぞの立場の違いから、なかなか難しい場面もありました。もっと連携を深めるために、自分以外の職種について知ることが必要だと実感しています。

Q2 薬学部と連携した授業の感想は？

薬剤師への理解と信頼が深まり、将来の力に。

薬学部の学生と一緒に学ぶことで、薬剤師への理解や信頼を深めることができます。薬学部の学生が1年次から高度な学習をしている姿を目の当たりにでき、薬について困った時には安心して頼ればいいと気付くことができました。もし、こういった機会が看護師になる前にあったら、薬剤師の方と連携し、もっと患者さんの助けになれていたかもしれません。



インタビュー抜粋です。全文は本学ホームページをご覧ください。

Q3 将来は、どのような医師になりたいですか？

医師不足の地域で、患者さんを幸せにできる医師に。

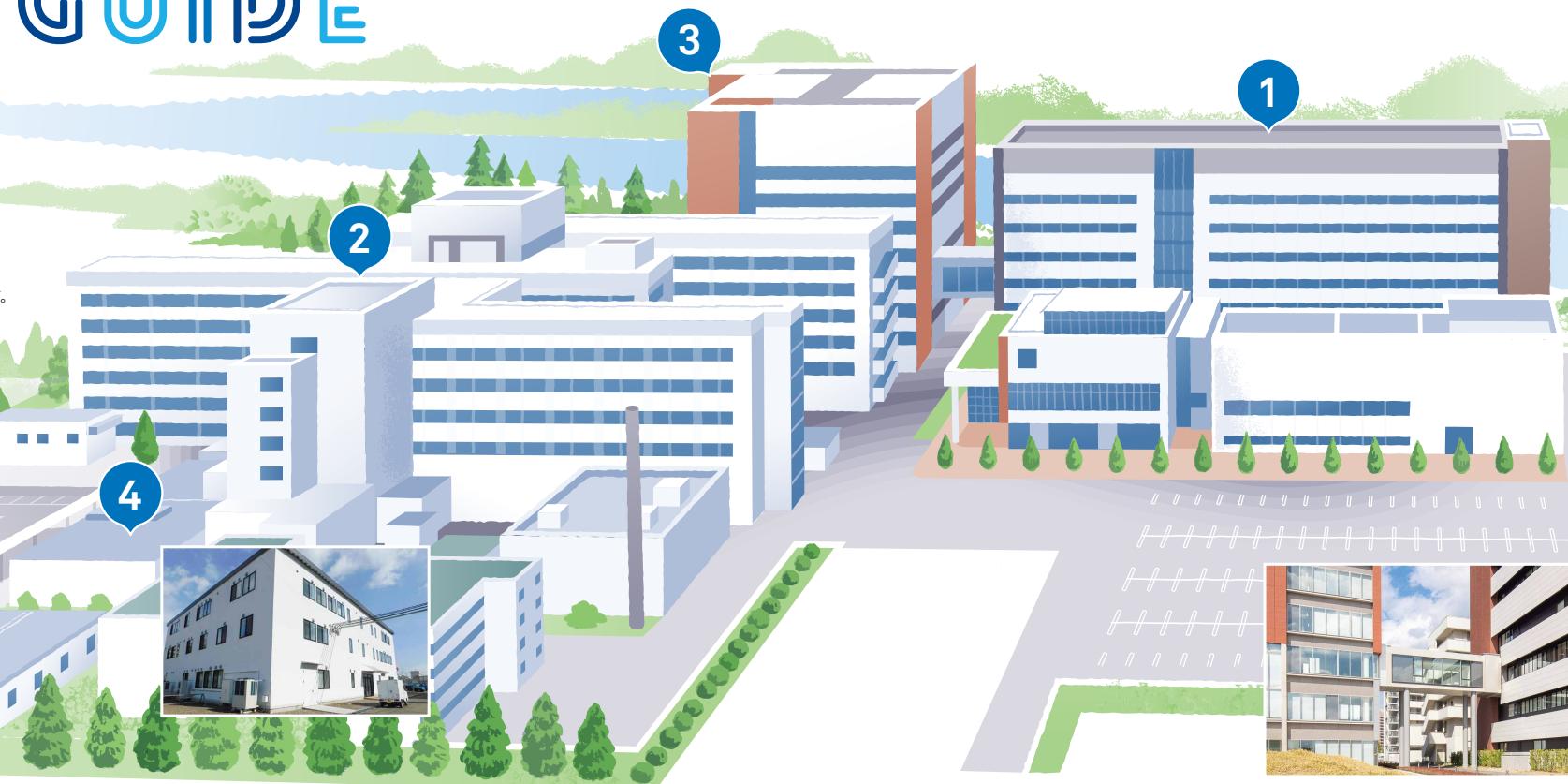
異なるメディカルスタッフの意見を取り入れながら、患者さんを幸せにできる医師になることが目標です。特に実習などを経て、地域医療には幅広い知識を持った医師が必要だということを学びました。この経験を活かしながら、東北地方をはじめ、医師が不足している地域で新しい医療の形をつくっていきたいです。

CAMPUS GUIDE

福室キャンパス紹介

② 大学病院(本館)

2013年4月に旧東北厚生年金病院の事業を譲り受け、私立の単科薬科大学としては初めて設置した附属病院であり、実践的な薬剤師養成の場としても活用してきました。その後同病院は、2016年4月の医学部新設に伴い、東北医科薬科大学病院に生まれ変わり今日に至っています。



③ 大学病院(新館)

2019年4月に完成した地上8階建ての新大学病院棟は、ハイブリッド手術室、バイオクリーンルームを含め手術室9室のほか、リニアックなど高機能の機器を備えた放射線治療室や画像診断室等があり、先進的な医療の提供が可能です。スタッフステーション内にはガラス張りの薬剤ステーションを配置し、薬剤師や看護師による薬や点滴等の準備の管理を徹底できる設計となっており、薬学部の学生の臨床研修の場としても活用されます。教育研究棟とは、3階にある連絡通路で結ばれています。



① 教育研究棟

医学部の3年次からは、大学病院に隣接する福室キャンパスで学びます。学生のための教育研究棟は、基礎・臨床医学学習のための教育エリアと研究・実験エリアの2つのエリアからなる先進の環境です。



共同実験室



各研究室の教員や学生が共同で実験を行っています。

中央機器センター



医学部の教育・研究を推進するための共同利用を目的として、数多くの測定機器が設置されています。

組織・病理標本センター



研究支援を目的とした組織・病理標本の作製受託や、共同利用を目的とした機器等を設置しています。

図書館医学分館



医学分野の専門書を収集しています。自習スペースを完備しており、平日夜間や土日も利用できます。

食堂



196席を完備。限定メニューなど福室キャンパスでしか食べられないメニューも人気です。

プラタナスホール



ヒボクラテスの木(プラタナス)からその名がつけられた300席のホール。様々なイベントに利用されています。

③ 大学病院(新館) (最新医療機器を備え、近代的かつ人に寄り添う医療を)

ハイブリッド手術室



専用ベッドと連動する最新の血管撮影装置を備え、高精度の血管内治療とバイパスなどの外科治療を同時に実行するハイブリッド手術室を開設しました。動脈瘤に対するステントグラフト内挿術などの高度な治療を、より安全な環境で行う事ができるようになりました。

手術支援ロボットda Vinci(ダ・ヴィンチ)



患者の腹部に開けた小さな穴から体内に入れた鉗子などの機械を、医師が離れたところにある操縦台に座って操作します。操縦台につけられたモニター画面では3D(立体)映像として腹腔内を見ることができますため、細やかな手術を安全に行うことができます。

④ メディカルトレーニングセンター (最新設備を備えた医学部生・薬学部生、医療スタッフの教育・研修の場)

心臓病診察シミュレーター イチロー



心音の聴診・触診・視診による診察が可能。心音聴診:大動脈・肺動脈・三尖弁・僧帽弁部位でそれぞれ症例によって特徴のある心音を再現できます。

SimMan3G



成人患者のバイタルを再現するワイヤレス操作シミュレーター。神経学的反応、出血や体液分泌などの機能を搭載し、幅広いシナリオトレーニングが可能です。

超音波トレーニングモデルECHOZY



肝臓・胆嚢・脾臓をはじめとする主要な上腹部消化管を正確に再現。解剖学的理験を深めながら簡易なスクリーニングのトレーニングができます。